



第5次 鈴鹿市総合計画

～みんなで築く鈴鹿夢プラン～

総括



平成28年12月

鈴 鹿 市

《第5次鈴鹿市総合計画 みんなで築く鈴鹿夢プランの検証》

2006(平成18)年4月にスタートしました「第5次鈴鹿市総合計画 みんなで築く鈴鹿夢プラン」(以下、「第5次総合計画」という。)は、2016(平成28)年3月末をもって10年間の計画期間を終了しました。

この間、基本構想に基づき、

第1期行財政経営計画【2006(平成18)年度～2008(平成20)年度】

第2期行財政経営計画【2009(平成21)年度～2011(平成23)年度】

第3期行財政経営計画【2012(平成24)年度～2015(平成27)年度】

の3期に分けて施策や単位施策、事務事業の見直しを行いながら、本市がめざす将来都市像の実現に向けて様々な取組を進めてきました。

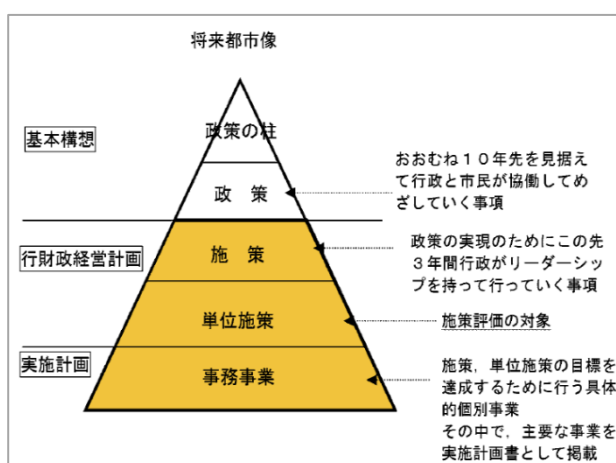
本件は、第5次総合計画の基本構想について、評価検証を行うことで、第5次総合計画の総括としてまとめたものです。

● 将来都市像と指標の設定

第5次総合計画では、「市民一人ひとりが夢や生きがいをもって安心して暮らせるまちすずか」を将来都市像として基本構想に設定し、その達成は、「鈴鹿市は住みよいところだと思ふ人の割合」という指標を用いて測ることとしています。また、行財政経営計画及び実施計画については、成果指標や活動指標をそれぞれに設定していますので、それらの指標を用いて達成を測ることとしています。

● 検証方法

第5次総合計画は、「基本構想」、「行財政経営計画」及び「実施計画」の3段階で構成しており、構成の最上位に当たる基本構想は、本市がめざす将来都市像の達成状況について、市民アンケートによって実績を把握し、検証を行います。また、行財政経営計画は、単位施策評価及び行財政経営計画検証会議の結果によって検証を行い、実施計画は、事務事業評価の結果によって検証を行います。



● 検証結果

1 基本構想の検証

(1) 市民アンケートの実施概要

1 対象者及び抽出方法	市民 4,000名 18歳以上の市民の中から, 多段階無作為抽出 (行政区, 性別, 年齢構成比を基に抽出)
2 調査方法	郵送調査
3 実施スケジュール	調査票の発送 10月11日(火)
	回答期間 10月11日(火)~10月31日(月) ※11月4日(金)までに到着した分を集計しています。
4 回収結果	(1)有効回答数(率)1,867人(46.7%)
	(2)無効調査数(率)2,133人(53.3%)

(2) 市民アンケートの実施結果

将来都市像の達成を図るための指標	鈴鹿市は住みよいところだ と思う人の割合※1	初期値※2	目標値※2	中間値※3	実績値
		2004 (平成16)年度	2015 (平成27)年度	2014 (平成26)年度	2016 (平成28)年度
		71%	80%以上	77%	74%

※1 市民アンケートで「非常に住みやすい」及び「どちらかといえば住みやすい」を選択した割合を「鈴鹿市は住みよいところだと思う人」の割合としています。

※2 初期値及び目標値は, 第5次総合計画の策定に当たり2004(平成16)年度に測定した※1の現状値及び計画期間満了時点の目標値です。

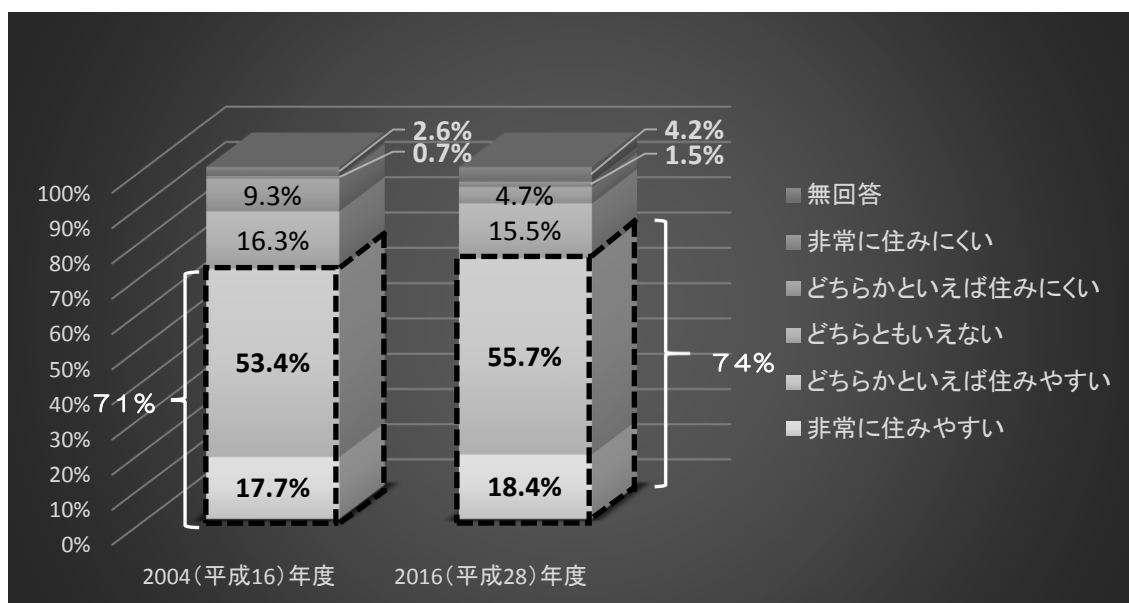
※3 中間値は, 既に取り組を開始している本市の新たな総合計画(以下,「総合計画2023」という。)の策定に当たり, 第5次総合計画の推進内容を総合計画2023に反映する目的で2014(平成26)年度に実施した「新たな中・長期的計画策定のための市政アンケート(以下,「中・長期計画策定アンケート」という。)」により測定した数値です。

※以降のグラフや表で使用している集計結果については, 全て小数点以下第2位を四捨五入しているため, 比率の合計が100%にならないことがあります。

問：鈴鹿市は住みよいところだと思いますか。

		非常に住みやすい	どちらかといえば住みやすい	どちらともいえない	どちらかといえば住みにくい	非常に住みにくい	無回答	合計
2004 (平成16)年度	人数	269	814	249	141	11	39	1,523
	構成比	17.7%	53.4%	16.3%	9.3%	0.7%	2.6%	100.0%
2016 (平成28)年度	人数	344	1,040	290	87	28	78	1,867
	構成比	18.4%	55.7%	15.5%	4.7%	1.5%	4.2%	100.0%

※ 構成比が増加している項目



 「鈴鹿市は住みよいところだと思う人」の割合

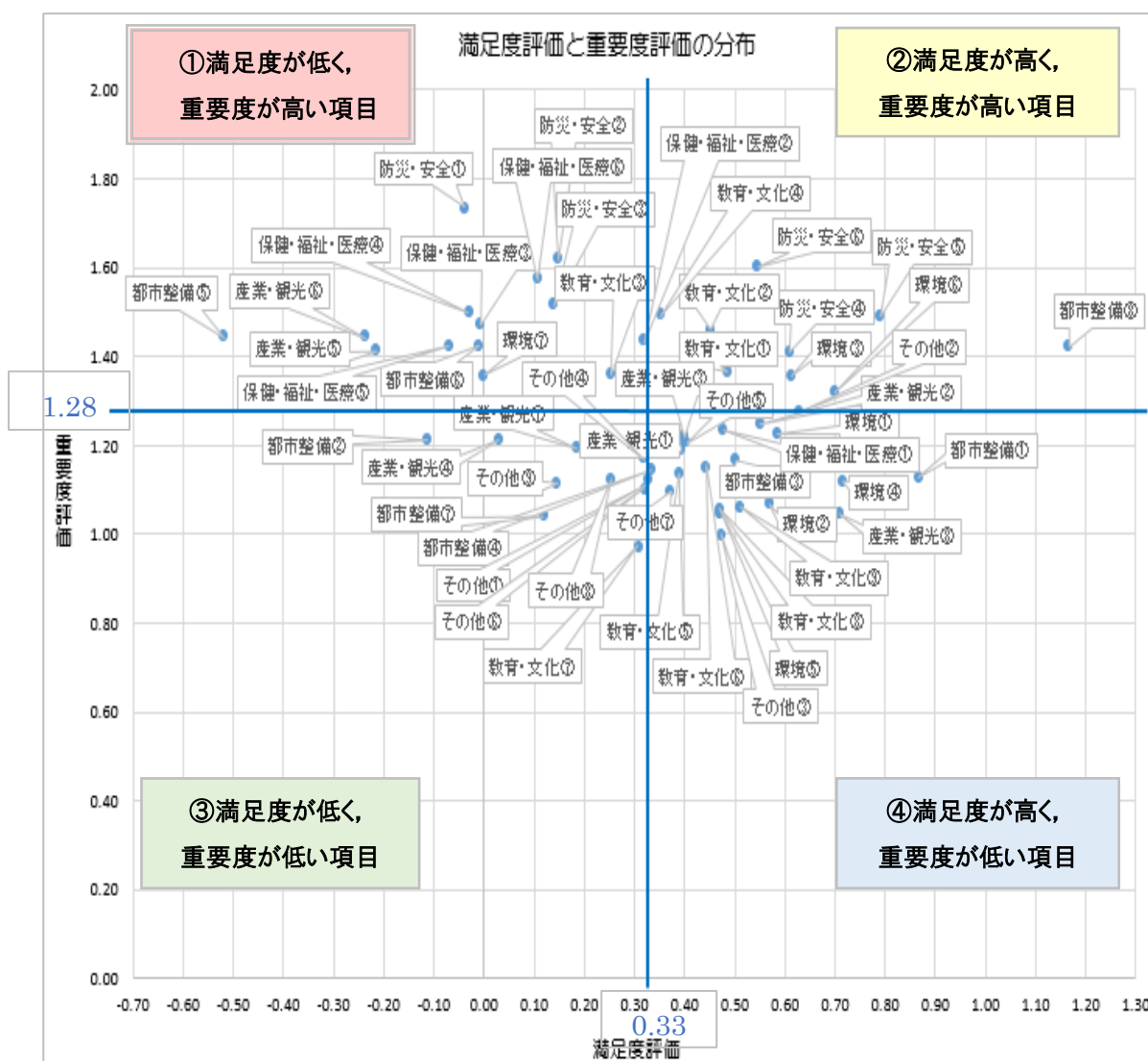
今回の市民アンケートでは、第5次総合計画の策定時である2004(平成16)年度に測定した初期値と比べ3%増加しているものの、目標値として設定した80%以上を6%下回っており、また、総合計画2023の策定に当たり、2014(平成26)年度に実施した中・長期計画策定アンケートにおいて測定した中間値(77%)よりも3%下回る結果となりました。

この結果の要因を探るため、中・長期計画策定アンケートにおける「まちづくりの満足度と重要度」の結果も活用しながら、「性別」、「年代別」、「地域別」の各視点で分析を行っています。

(3) 要因分析 (中・長期計画策定アンケート結果の活用)

中・長期計画策定アンケートでは、まちづくりの満足度と重要度における評価得点に基づき、縦軸を重要度評価、横軸を満足度評価として次のとおり散布図を作成しています。

散布図では、満足度及び重要度評価得点について、それぞれの平均点を基準(青色の実線)としています。基準により分類された4つの範囲において、「満足度が低く、重要度が高い」に分類される項目は、市民が改善を求める意識が強い取組と考えることができます。



また、この散布図の各範囲ごとの項目及び内容は次表のとおりです。

範囲	項目	内容
①満足度が低く、重要度が高い項目 (14項目)	防災・安全①	地震・水害など自然災害からの安全性確保(防災・減災対策)
	防災・安全②	暴力や犯罪などからの安全性確保(防犯対策)
	防災・安全③	交通安全確保(交通事故防止等)
	都市整備⑤	高齢者等すべての人が移動しやすい環境の整備(道路や公共施設のバリアフリー化等)
	都市整備⑥	雨水排水施設の整備(河川改修等)
	環境⑦	省エネルギーや太陽光発電等再生可能エネルギーの促進
	教育・文化③	高校・大学・専門学校教育の充実
	保健・福祉・医療②	保育や子育て相談など子育て支援の充実
	保健・福祉・医療③	高齢者福祉の充実
	保健・福祉・医療④	介護サービスの充実
	保健・福祉・医療⑤	障がい者の自立支援や社会参加
	保健・福祉・医療⑥	医療体制の充実
	産業・観光⑤	中小企業の活性化
産業・観光⑥	労働環境の充実	
②満足度が高く、重要度が高い項目 (9項目)	防災・安全④	公害、防疫(感染症対策)等危機管理体制の充実
	防災・安全⑤	火災予防、消防体制の充実
	防災・安全⑥	救急体制の充実
	都市整備⑧	水道水の安定供給
	環境③	生活排水の処理(下水道整備等)による水質の保全
	環境⑥	ごみの減量化や再資源化(リサイクル)
	教育・文化①	幼稚園など幼児教育の充実
	教育・文化②	小中学校教育の充実
教育・文化④	幼稚園、学校等における安全対策	
③満足度が低く、重要度が低い項目 (9項目)	都市整備②	鉄道・バスなどの公共交通機関の便利さ
	都市整備⑦	公園・広場などの整備・便利さ
	教育・文化⑦	芸術・文化の振興(文化施設、芸術・文化活動等)
	産業・観光④	企業誘致の推進
	産業・観光⑦	観光振興による地域活性化
	その他④	高度情報化時代への対応(情報通信ネットワークの充実)
	その他⑥	住民参加によるまちづくりの推進
	その他⑧	近隣市町との連携強化(広域行政の推進)
	その他⑨	市外における知名度の向上(シティセールスやPRの強化)
④満足度が高く、重要度が低い項目 (21項目)	都市整備①	日用品・食料品などの買い物の便利さ
	都市整備③	身近な生活道路の便利さ
	都市整備④	広域的に移動できる幹線道路の便利さ
	環境①	海・川など水辺の豊かさなど自然環境の保全
	環境②	市街地周辺農地の保全
	環境④	公園や緑地など緑の豊かさ
	環境⑤	まち並みや景観の保全
	教育・文化⑤	生涯学習の充実(公民館、図書館等)
	教育・文化⑥	人権教育の充実
	教育・文化⑧	文化財の保全・活用、伝統芸能の継承
	教育・文化⑨	スポーツの振興(スポーツ施設、スポーツ活動等)
	保健・福祉・医療①	健康づくり事業の充実
	産業・観光①	農林水産業の振興
	産業・観光②	地産地消の推進
	産業・観光③	商業やサービス産業の活性化
	産業・観光⑧	モータースポーツの振興による地域活性化
	その他①	男女共同参画社会の実現
	その他②	人権の尊重
	その他③	国際交流の推進、多文化共生社会の推進
	その他⑤	市政や地域に関する情報発信の充実
	その他⑦	NPO、ボランティアなど市民活動の支援

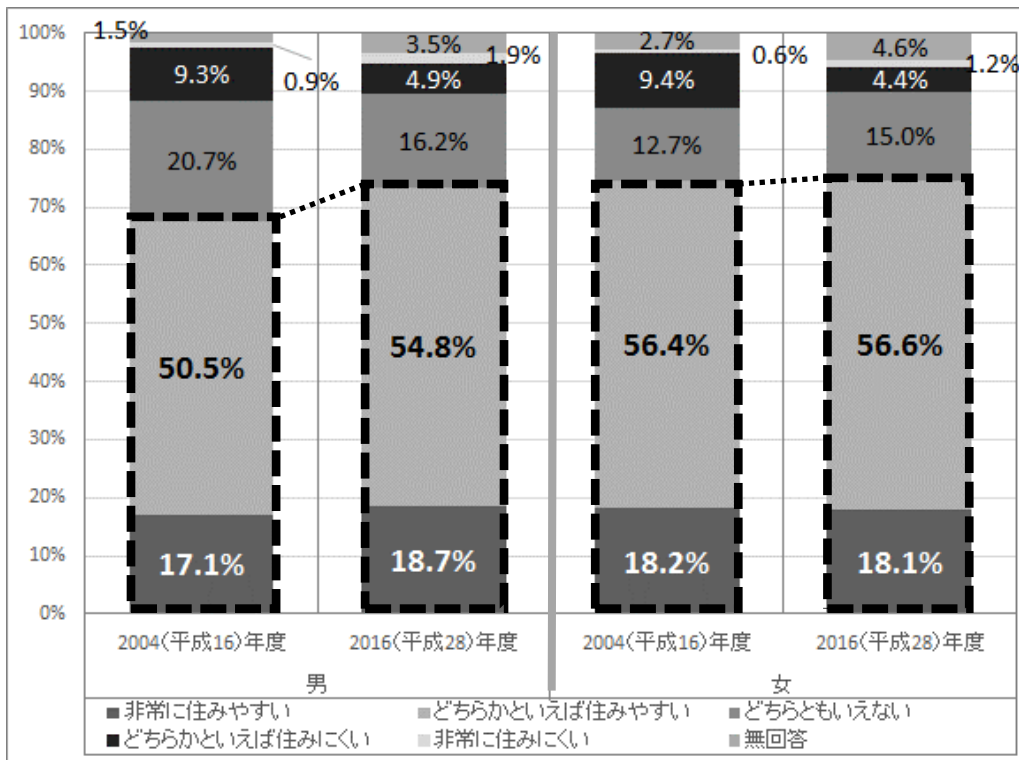
※中・長期計画策定アンケートの詳細については、鈴鹿市ホームページの行政ガイド>計画・財政・施策>計画>鈴鹿市総合計画2023>基本構想・基本計画策定の経緯または以下のURLから御覧いただくことができます。

【URL】 <http://www.city.suzuka.lg.jp/gyosei/plan/keikaku/newplan/index22.html>

① 性別分析

			非常に住みやすい	どちらかといえば住みやすい	どちらともいえない	どちらかといえば住みにくい	非常に住みにくい	無回答	合計
男	2004 (平成16)年度	人数	116	342	140	63	6	10	677
		構成比	17.1%	50.5%	20.7%	9.3%	0.9%	1.5%	100.0%
男	2016 (平成28)年度	人数	159	466	138	42	16	30	851
		構成比	18.7%	54.8%	16.2%	4.9%	1.9%	3.5%	100.0%
女	2004 (平成16)年度	人数	147	456	103	76	5	22	809
		構成比	18.2%	56.4%	12.7%	9.4%	0.6%	2.7%	100.0%
女	2016 (平成28)年度	人数	183	573	152	45	12	47	1,012
		構成比	18.1%	56.6%	15.0%	4.4%	1.2%	4.6%	100.0%
無回答	2004 (平成16)年度	人数	6	16	6	2	0	7	37
		構成比	16.2%	43.2%	16.2%	5.4%	0.0%	18.9%	100.0%
無回答	2016 (平成28)年度	人数	2	1	0	0	0	1	4
		構成比	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%
総計	2004 (平成16)年度	人数	269	814	249	141	11	39	1,523
		構成比	17.7%	53.4%	16.3%	9.3%	0.7%	2.6%	100.0%
総計	2016 (平成28)年度	人数	344	1,040	290	87	28	78	1,867
		構成比	18.4%	55.7%	15.5%	4.7%	1.5%	4.2%	100.0%

※ 構成比が増加している項目



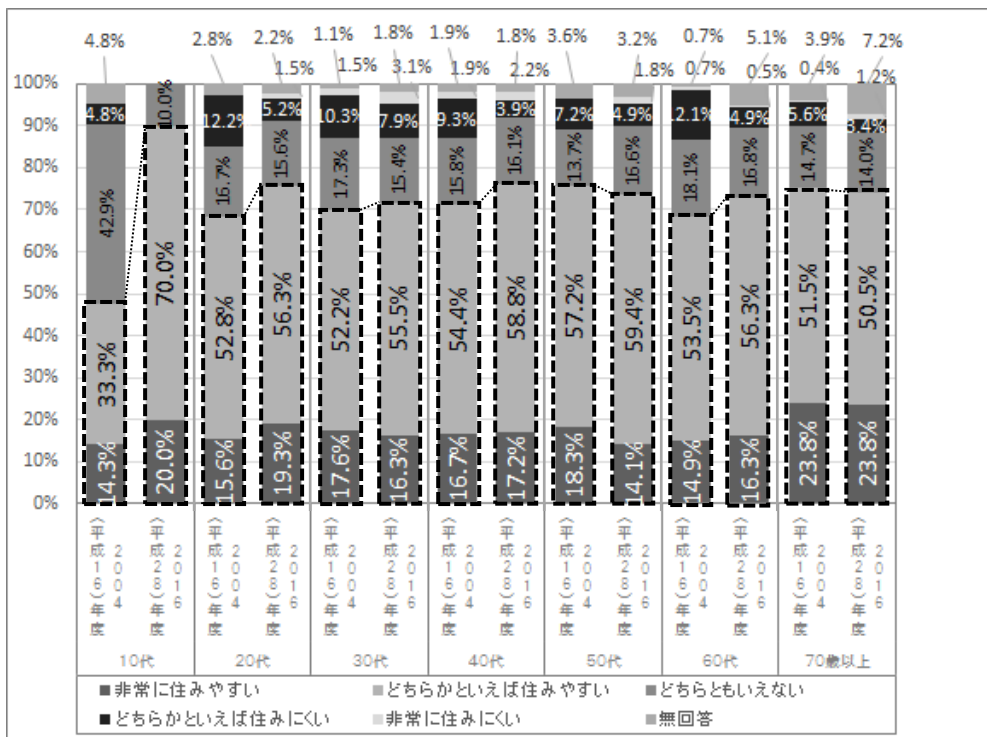
【性別分析から分かること】

- 「鈴鹿市は住みよいところだと思う人」の割合は、男性が73.5%、女性が74.7%という結果であり、男女共に目標とする80%以上には達していません。
- 「鈴鹿市は住みよいところだと思う人」のこの10年の増減は、男性が5.9%の増加、女性が0.1%の増加となっており、男女共に増加しています。
- 「鈴鹿市は住みよいところだと思う人」の男女差は、2004(平成16)年度には7%ありましたが、2016(平成28)年度には1.2%に減少しており、男女が共に住みよいと思うことのできる施策の推進が図れているということを読み取ることができます。

② 年代別分析

		非常に住みやすい	どちらかといえば住みやすい	どちらともいえない	どちらかといえば住みにくい	非常に住みにくい	無回答	合計
10代	2004 (平成16)年度	人数 3 構成比 14.3%	7 33.3%	9 42.9%	1 4.8%	0 0.0%	1 4.8%	21 100.0%
	2016 (平成28)年度	6 20.0%	21 70.0%	3 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	30 100.0%
20代	2004 (平成16)年度	28 15.6%	95 52.8%	30 16.7%	22 12.2%	0 0.0%	5 2.8%	180 100.0%
	2016 (平成28)年度	26 19.3%	76 56.3%	21 15.6%	7 5.2%	2 1.5%	3 2.2%	135 100.0%
30代	2004 (平成16)年度	48 17.6%	142 52.2%	47 17.3%	28 10.3%	4 1.5%	3 1.1%	272 100.0%
	2016 (平成28)年度	37 16.3%	126 55.5%	35 15.4%	18 7.9%	7 3.1%	4 1.8%	227 100.0%
40代	2004 (平成16)年度	36 16.7%	117 54.4%	34 15.8%	20 9.3%	4 1.9%	4 1.9%	215 100.0%
	2016 (平成28)年度	48 17.2%	164 58.8%	45 16.1%	11 3.9%	6 2.2%	5 1.8%	279 100.0%
50代	2004 (平成16)年度	56 18.3%	175 57.2%	42 13.7%	22 7.2%	0 0.0%	11 3.6%	306 100.0%
	2016 (平成28)年度	40 14.1%	168 59.4%	47 16.6%	14 4.9%	5 1.8%	9 3.2%	283 100.0%
60代	2004 (平成16)年度	42 14.9%	151 53.5%	51 18.1%	34 12.1%	2 0.7%	2 0.7%	282 100.0%
	2016 (平成28)年度	67 16.3%	231 56.3%	69 16.8%	20 4.9%	2 0.5%	21 5.1%	410 100.0%
70歳以上	2004 (平成16)年度	55 23.8%	119 51.5%	34 14.7%	13 5.6%	1 0.4%	9 3.9%	231 100.0%
	2016 (平成28)年度	119 23.8%	253 50.5%	70 14.0%	17 3.4%	6 1.2%	36 7.2%	501 100.0%
無回答	2004 (平成16)年度	1 6.3%	8 50.0%	2 12.5%	1 6.3%	0 0.0%	4 25.0%	16 100.0%
	2016 (平成28)年度	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
総計	2004 (平成16)年度	269 17.7%	814 53.4%	249 16.3%	141 9.3%	11 0.7%	39 2.6%	1,523 100.0%
	2016 (平成28)年度	344 18.4%	1,040 55.7%	290 15.5%	87 4.7%	28 1.5%	78 4.2%	1,867 100.0%

※ 構成比が増加している項目



まちづくりの満足度トップ3(年代別)

年代	トップ1	トップ2	トップ3
10代	【環境分野】 海・川など水辺の豊かさなど自然環境の保全	【都市整備分野】 水道水の安定供給	【防災・安全分野】 火災予防, 消防体制の充実
20代	【都市整備分野】 水道水の安定供給	【都市整備分野】 日用品・食料品などの買い物の 便利さ	【防災・安全分野】 火災予防, 消防体制の充実
30代	【都市整備分野】 水道水の安定供給	【都市整備分野】 日用品・食料品などの買い物の 便利さ	【防災・安全分野】 火災予防, 消防体制の充実
40代	【都市整備分野】 水道水の安定供給	【都市整備分野】 日用品・食料品などの買い物の 便利さ	【環境分野】 公園や緑地など緑の豊かさ
50代	【都市整備分野】 水道水の安定供給	【都市整備分野】 日用品・食料品などの買い物の 便利さ	【環境分野】 公園や緑地など緑の豊かさ
60代	【都市整備分野】 水道水の安定供給	【都市整備分野】 日用品・食料品などの買い物の 便利さ	【環境分野】 ごみの減量化や再資源化(リサイ クル)
70歳 以上	【都市整備分野】 水道水の安定供給	【防災・安全分野】 救急体制の充実	【防災・安全分野】 火災予防, 消防体制の充実

まちづくりの満足度ワースト3(年代別)

年代	ワースト1	ワースト2	ワースト3
10代	【環境分野】 省エネルギーや太陽光発電等 再生可能エネルギーの促進	【都市整備分野】 高齢者等全ての人が移動しやす い環境の整備(道路や公共施設 のバリアフリー化等)	【防災・安全分野】 火災予防, 消防体制の充実 【保健・福祉・医療分野】 介護サービスの充実 【産業・観光分野】 企業誘致の推進
20代	【都市整備分野】 鉄道・バスなどの公共交通機関 の便利さ	【都市整備分野】 高齢者等全ての人が移動しやす い環境の整備(道路や公共施設 のバリアフリー化等)	【産業・観光分野】 中小企業の活性化 【産業・観光分野】 労働環境の充実
30代	【都市整備分野】 高齢者等全ての人が移動しやす い環境の整備(道路や公共施設 のバリアフリー化等)	【防災・安全分野】 暴力や犯罪などからの安全確保 (防犯対策)	【産業・観光分野】 労働環境の充実
40代	【都市整備分野】 高齢者等全ての人が移動しやす い環境の整備(道路や公共施設 のバリアフリー化等)	【都市整備分野】 鉄道・バスなどの公共交通機関 の便利さ	【産業・観光分野】 中小企業の活性化
50代	【都市整備分野】 高齢者等全ての人が移動しやす い環境の整備(道路や公共施設 のバリアフリー化等)	【産業・観光分野】 中小企業の活性化	【産業・観光分野】 労働環境の充実
60代	【都市整備分野】 高齢者等全ての人が移動しやす い環境の整備(道路や公共施設 のバリアフリー化等)	【産業・観光分野】 労働環境の充実	【保健・福祉・医療分野】 高齢者福祉の充実
70歳 以上	【都市整備分野】 高齢者等全ての人が移動しやす い環境の整備(道路や公共施設 のバリアフリー化等)	【産業・観光分野】 中小企業の活性化	【保健・福祉・医療分野】 障がいの者の自立支援や社会参 加

※中・長期的計画策定アンケートのデータを基に作成しています。

【年代別分析から分かること】

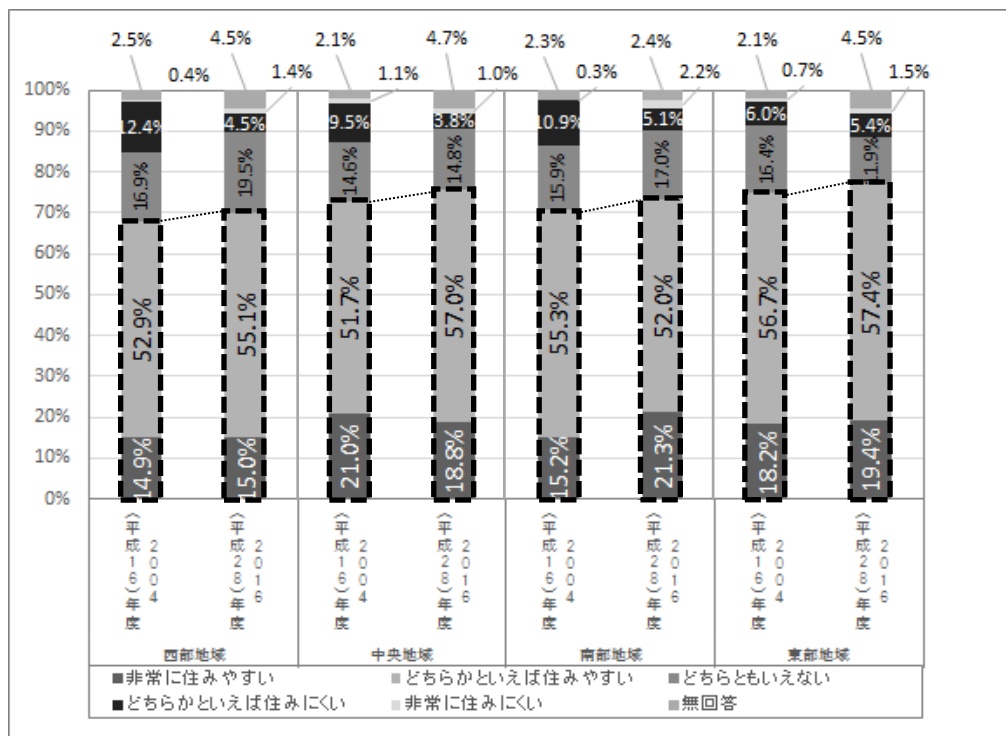
- 「鈴鹿市は住みよいところだと思う人」の割合は、10代が90%で最も高く、目標の80%を超えていますが、他の全ての年代では目標の80%以上には達していません。
- 50代と70歳以上の年代は、「鈴鹿市は住みよいところだと思う人」が減少しており、他の全ての年代では増加しています。
- 「鈴鹿市は住みよいところだと思う人」を増加させるためには、中・長期計画策定アンケートの結果から、全ての年代に共通して満足度が低い都市整備分野の「高齢者等全ての人移動しやすい環境の整備（道路や公共施設のバリアフリー化等）」を強化していく必要があると推察されます。

③ 地域別分析

		非常に住みやすい	どちらかといえば住みやすい	どちらともいえない	どちらかといえば住みにくい	非常に住みにくい	無回答	合計	
西部地域	2004 (平成16)年度	人数	36	128	41	30	1	6	242
		構成比	14.9%	52.9%	16.9%	12.4%	0.4%	2.5%	100.0%
	2016 (平成28)年度	人数	43	158	56	13	4	13	287
		構成比	15.0%	55.1%	19.5%	4.5%	1.4%	4.5%	100.0%
中央地域	2004 (平成16)年度	人数	99	244	69	45	5	10	472
		構成比	21.0%	51.7%	14.6%	9.5%	1.1%	2.1%	100.0%
	2016 (平成28)年度	人数	113	343	89	23	6	28	602
		構成比	18.8%	57.0%	14.8%	3.8%	1.0%	4.7%	100.0%
南部地域	2004 (平成16)年度	人数	46	167	48	33	1	7	302
		構成比	15.2%	55.3%	15.9%	10.9%	0.3%	2.3%	100.0%
	2016 (平成28)年度	人数	79	193	63	19	8	9	371
		構成比	21.3%	52.0%	17.0%	5.1%	2.2%	2.4%	100.0%
東部地域	2004 (平成16)年度	人数	79	246	71	26	3	9	434
		構成比	18.2%	56.7%	16.4%	6.0%	0.7%	2.1%	100.0%
	2016 (平成28)年度	人数	104	308	64	29	8	24	537
		構成比	19.4%	57.4%	11.9%	5.4%	1.5%	4.5%	100.0%
無回答等	2004 (平成16)年度	人数	9	29	20	7	1	7	73
		構成比	12.3%	39.7%	27.4%	9.6%	1.4%	9.6%	100.0%
	2016 (平成28)年度	人数	5	38	18	3	2	4	70
		構成比	7.1%	54.3%	25.7%	4.3%	2.9%	5.7%	100.0%
総計	2004 (平成16)年度	人数	269	814	249	141	11	39	1,523
		構成比	17.7%	53.4%	16.3%	9.3%	0.7%	2.6%	100.0%
	2016 (平成28)年度	人数	344	1,040	290	87	28	78	1,867
		構成比	18.4%	55.7%	15.5%	4.7%	1.5%	4.2%	100.0%

※ 構成比が増加している項目

西部地域(9地区)	庄野, 加佐登, 石薬師, 井田川, 久間田, 椿, 深伊沢, 鈴峰, 庄内
中央地域(5地区)	牧田, 飯野, 河曲, 玉垣, 神戸
南部地域(5地区)	国府, 稻生, 栄, 天名, 合川
東部地域(4地区)	白子, 一ノ宮, 箕田, 若松



まちづくりの満足度トップ3(地域別)

地域	トップ1	トップ2	トップ3
西部地域	【都市整備分野】 水道水の安定供給	【環境分野】 公園や緑地など緑の豊かさ	【産業・観光分野】 モータースポーツの振興による地域活性化
中央地域	【都市整備分野】 水道水の安定供給	【都市整備分野】 日用品・食料品などの買い物の 便利さ	【防災・安全分野】 火災予防, 消防体制の充実
南部地域	【都市整備分野】 水道水の安定供給	【環境分野】 公園や緑地など緑の豊かさ	【防災・安全分野】 火災予防, 消防体制の充実
東部地域	【都市整備分野】 水道水の安定供給	【都市整備分野】 日用品・食料品などの買い物の 便利さ	【環境分野】 生活排水の処理(下水道整備 等)による水質保全

まちづくりの満足度ワースト3(地域別)

年代	ワースト1	ワースト2	ワースト3
西部地域	【都市整備分野】 鉄道・バスなどの公共交通機関 の便利さ	【都市整備分野】 高齢者等全ての人が移動しやす い環境の整備(道路や公共施設 のバリアフリー化等)	【産業・観光分野】 労働環境の充実
中央地域	【都市整備分野】 高齢者等全ての人が移動しやす い環境の整備(道路や公共施設 のバリアフリー化等)	【産業・観光分野】 労働環境の充実	【産業・観光分野】 中小企業の活性化
南部地域	【都市整備分野】 高齢者等全ての人が移動しやす い環境の整備(道路や公共施設 のバリアフリー化等)	【都市整備分野】 鉄道・バスなどの公共交通機関 の便利さ	【産業・観光分野】 労働環境の充実
東部地域	【都市整備分野】 高齢者等全ての人が移動しやす い環境の整備(道路や公共施設 のバリアフリー化等)	【防災・安全分野】 地震・水害など自然災害からの 安全性確保(防災・減災対策)	【産業・観光分野】 中小企業の活性化

※中・長期的計画策定アンケートのデータを基に作成しています。

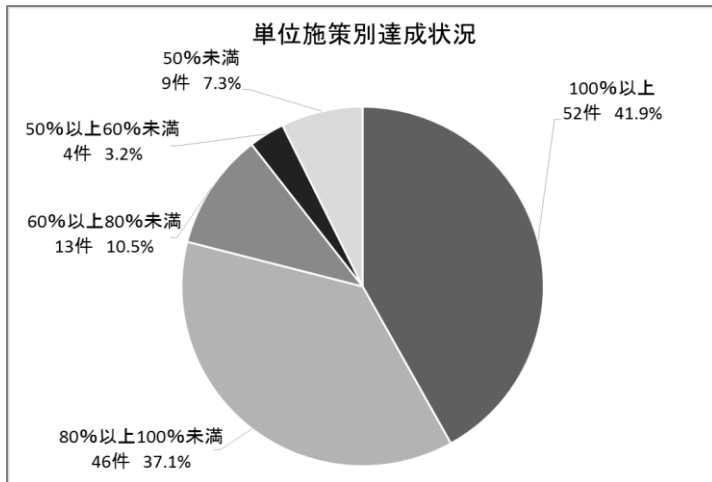
【地域別分析から分かること】

- 「鈴鹿市は住みよいところだと思う人」の割合は、全ての地域で目標とする80%以上には達していません。
- 「鈴鹿市は住みよいところだと思う人」の割合は、全ての地域で2～3%程度増加しており、着実に住みよさが向上しています。
- 「鈴鹿市は住みよいところだと思う人」をさらに増加させるためには、中・長期計画策定アンケートの結果から、全ての地域に共通して満足度が低い都市整備分野の「高齢者等全ての人が移動しやすい環境の整備(道路や公共施設のバリアフリー化等)」を強化していく必要があると推察されます。
- 「鈴鹿市は住みよいところだと思う人」の割合は、東部地域が76.8%, 中央地域が75.8%, 南部地域73.3%, 西部地域70.1%と地域差が見られ、比較的割合の低い西部地域及び南部地域で「鈴鹿市は住みよいところだと思う人」の割合を増加させるためには、中・長期計画策定アンケートの結果から、都市整備分野の「鉄道・バスなどの公共交通機関の便利さ」を強化していく必要があると推察されます。

2 行財政経営計画・実施計画の検証

(1) 内部評価結果

① 単位施策評価結果



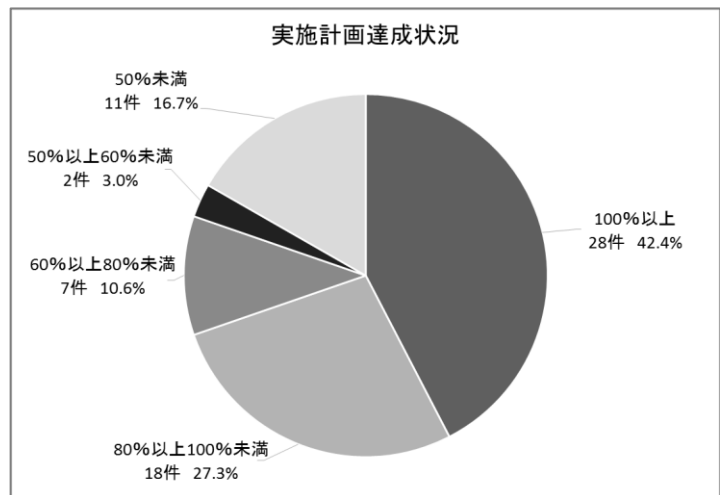
第5次総合計画の基本構想に基づいて、政策の実現のために行政がリーダーシップを持って実施していく行財政経営計画に位置付けられている単位施策について、所属長による評価を実施しました。

計画の最終年度に当たる2015(平成27)年度に実施した全124単位施策中、目標を達成することのできた単位施策は52単位施策で、達成率は41.9%という結果でした。

② 事務事業評価結果

単位施策の目的を達成するための具体的手段である事務事業のうち、主要な事業の実施方法について財源などを明らかにするための実施計画事業について、各担当者による評価を実施しました。

2015(平成27)年度に実施した全66計画中で目標を達成することのできた計画は28計画で、達成率は42.4%となりました。



※単位施策評価並びに事務事業評価の詳細については、鈴鹿市ホームページの行政ガイド>計画・財政・施策>行政評価または以下のURLから御覧いただくことができます。

【URL】 <http://www.city.suzuka.lg.jp/gyosei/plan/hyoka/index.html>

(2) 外部評価結果

① 行財政経営計画検証会議^{※1}による評価結果

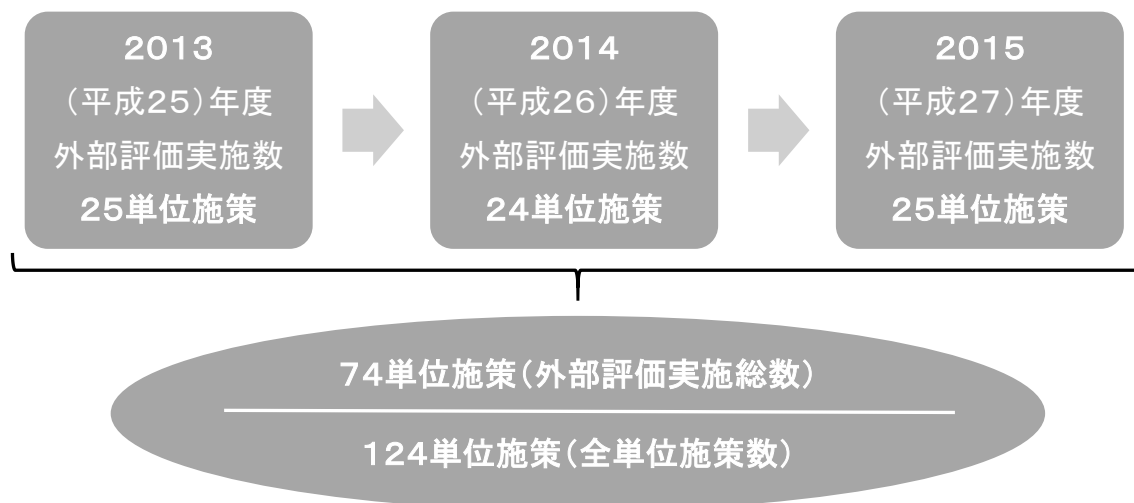
行財政経営計画検証会議では、評価対象を単位施策とし、2013(平成25)年度に25単位施策、2014(平成26)年度に24単位施策、2015(平成27)年度に25単位施策の計74単位施策の外部評価を実施しました。

会議の委員からは、

- ・単位施策評価シートを記載する際には、市民にも分かりやすく記載するよう努めること
- ・成果指標の目標値が、必要に応じて変更できると、外部評価がしやすいので、総合計画2023では、目標値が見直しできる仕組みを考えること

など様々な有意義な意見をいただきました。

※1 行財政経営計画検証会議は、鈴鹿市まちづくり基本条例の趣旨に基づき、より一層市民参加のまちづくりを進めるために立ち上げた会議体です。第3期行財政経営計画の策定に携わった市民の視点及び学識経験者の専門的見地を活用して、外部評価を2013(平成25)年度から2015(平成27)年度の期間で実施しました。



※行財政経営計画検証会議による評価結果の詳細については、鈴鹿市ホームページの行政ガイド>計画・財政・施策>計画>みんなで築く鈴鹿夢プラン(第5次鈴鹿市総合計画)または以下のURLから御覧いただくことができます。

【URL】 <http://www.city.suzuka.lg.jp/gyosei/plan/keikaku/sougou/index01.html>

《第5次総合計画の計画期間を終えて》

◆ 第5次総合計画の成果と課題

第5次総合計画の基本構想において設定した将来都市像の達成を図るための指標「鈴鹿市は住みよいところだと思う人の割合」の目標達成度については、目標値の80%以上に対し、実績値が74%で、未達成という結果となりました。

性別、年代別、地域別のクロス分析の結果からは、おおむね全ての層で「鈴鹿市は住みよいところだと思う人」を増加させることができたという成果を導き出すことができ、第5次総合計画による取組は、将来都市像の実現に向け着実に推進が行われたという点で、一定の評価ができるものと考えます。

しかしながら、一方で、基本構想に設定した目標が未達成という結果や、行財政経営計画及び実施計画の達成度が低いという結果からは、目標達成のための実効性が不足していたのも事実です。

目標未達成の要因としては、行財政経営計画検証会議委員からの意見にもあるように、指標や目標値の設定が未熟なものや柔軟に見直すことができなかつたもの、また、施策等の推進に当たり関係機関との調整に時間を要したものなどの内部要因のほか、少子高齢化の加速や、市民生活や意識にも大きな影響を与えたリーマンショックに端を発した日本経済の大幅な景気後退による経済不安、さらには大規模な自然災害などの外部要因が複合的に関わっていると分析しています。

10年間に及ぶ計画期間を終えて、将来都市像の実現のためには、本市が持続的に成長し続ける都市であることが重要であり、市民と行政とがより一層連携して計画を推進する必要があるということあらためて認識することができました。

なお、本来なら、この分析結果を踏まえ、新たな計画の策定に着手すべきところではありますが、そうすることで、第5次総合計画と総合計画2023との間に空白が生じてしまうこととなります。

そこで、持続的に計画を推進することを重視し、第5次総合計画の推進と並行して2014(平成26)年度から、新たな計画である「総合計画2023」の策定に着手することとしました。

◆ 総合計画2023の策定に当たり

前述の課題を踏まえ、総合計画2023の策定に当たっては、「市民委員会」の設置や「まちづくり意見交換会」の開催など、多くの市民参画のもと、計画づくりに取り組むとともに、「中・長期計画 策定アンケート」に基づく第5次総合計画の検証や行財政経営計画検証会議からの意見等も計画に反映しています。

まず、総合計画2023を、市民と一体となって効率的、効果的に推進するため、将来都市像を「みんなで創り 育み 成長し みんなに愛され選ばれるまち すずか」とし、新たな時代に対応するため、市民と行政が「オール鈴鹿」でスクラムを組んでまちづくりに取り組んでいくことを基本としています。

そして、変化する社会経済環境に対応するため、将来都市像の実現に向けて、本市の現状を認識し、将来展望を踏まえた課題を的確に把握し、計画期間に市民のために何をすべきかを考え、行政のミッションとして取組の方向性を具体的に示すとともに、計画の実効性を担保し、効果的にまちづくりを推進するための新たな仕組みを取り入れています。

具体的には、市長の任期を考慮し、基本構想の期間を8年、基本計画及び実行計画の期間を前期・後期それぞれ4年とし、政策をより推進しやすいものとし、また、これまで基本計画のみに設定していた目標値を基本構想にも設定することで、8年間でめざす方向性をより明確にするとともに、設定した目標値については、施策等の進捗に応じて、適宜、見直しを行うこととしています。

※総合計画2023の詳細については、鈴鹿市ホームページの行政ガイド＞計画・財政・施策＞計画＞鈴鹿市総合計画2023または以下のURLから御覧いただくことができます。

【URL】 <http://www.city.suzuka.lg.jp/gyosei/plan/keikaku/newplan/index.html>

◆ 将来都市像の実現に向けて

総合計画2023の確実な推進を図るため、計画のスタートにあわせ、組織体制の見直しや個別の政策課題に対して迅速かつ柔軟に対応することが可能な体制の強化を図っています。

また、計画の実効性を向上させるために、これまで個別に推進を行ってきた行政運営のための仕組みを総合的に連携させ、一つの仕組みとして機能させるトータルマネジメントシステムを確立し、確実な計画の進行管理を行っていくこととしています。

この新たな体制及び仕組みのもとで、基本構想に掲げた将来都市像の実現に向けて、積極的に推進を図ってまいります。



鈴鹿市 政策経営部 行政経営課
〒513-8701
三重県鈴鹿市神戸一丁目18番18号
電話 <059>382-1100(代表)
<059>382-9005(直通)
内線 3213, 3214
URL <http://www.city.suzuka.lg.jp>